## 小学生時代(秋冬)

雨にたたられた季節感のない夏の帳尻合せに来た九月の猛暑は、朝顔 を一斉に開花させたが、半ばを過ぎると漸く朝夕の風もさわやかになっ てきた。

秋という季節は子供達にとって忙しかった。「音楽会」といって全校生徒が家族に、丸一日かけて講堂で演劇などの出し物を披露するのだが、この練習に一ヶ月以上かかる。私の記憶では、一年生の時「一寸法師」にお爺さんの役で、上級生の時「杜子春」に神将といって杜子春を槍で刺し殺す役で出たことがあるが、主役には向かなかったようだ。また、普段は行ったことのないような遠くの友達の家に行って時の経つのも忘れて後真っ暗な道を歩いて帰る心細さと言ったらなかった。

楽しい運動会が終ると学校園での稲刈りと脱穀・籾すり、小学校の備品購入費を捻出するための茶の実拾いなど年中行事が目白押しであった。

冬の西風は強く寒かった。小学校は私の家から西にあったので朝は体の大きい上級生が前と後を歩き、下級生が真中に包まれてしもやけで赤くなった手をこすり合せながら学校に通う。下級生が上級生に頼り甲斐を感じる一コマであった。

冬休みに入るとひたすら正月を待った。正月の連飾り用のゆずり葉を 兄と一緒に遠くの山まで取りに行ったり、自宅の墓地の掃除や朝早くか ら家族総出で行う餅つきなどは正月への気分を徐々に高揚させてくれた。 そして、静かな大晦日が明けると勉強そっちのけで遊べる正月である。 自宅に親類や先生方やPTAの人達が集まり大騒ぎをしたり、家族に島 田の町まで映画を見に連れて行って貰ったり、貰ったお年玉を殆んど遣 ってしまって反省したり、とにかく、喧騒の内に三が日が過ぎていった。

【平成15年9月22日 静岡新聞 夕刊 掲載】